

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

わが国のスポーツ振興ならびにスポーツ政策の形成に寄与する
「笹川スポーツ研究助成」2015年度41件
総額2,605万円の助成決定のお知らせ

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する公益財団法人笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：小野 清子 以下：SSF）は、日本のスポーツ振興に貢献する優れた人文・社会科学領域の研究活動を支援する助成制度『笹川スポーツ研究助成』の2015年度採択研究を決定しました。

本年度は、全国から158件の申請があり、学識経験者などで構成する選考委員会による厳正なる選考を経て、41件（**総額：26,047,000円**）が決定いたしました。

なお本日、SSF主催「笹川スポーツ研究助成」と日本科学協会主催「笹川科学研究助成」は、「研究奨励の会」を共同開催いたしました。（於：ANA インターコンチネンタルホテル東京）

2015年度笹川スポーツ研究助成 採択件数ならびに助成総額

研究テーマ		応募件数	採択件数	助成額
①スポーツ政策に関する研究	一般研究	30	6	8,979,000円
	奨励研究	22	7	
②スポーツとまちづくりに関する研究	一般研究	18	4	3,672,000円
	奨励研究	16	4	
③子ども・青少年スポーツの振興に関する研究	一般研究	37	10	13,396,000円
	奨励研究	35	10	
合 計		158	41	26,047,000円

■主な採択研究 —— 対象者氏名・研究テーマについては、3枚目以降の「採択研究一覧」をご覧ください。

- ◆ 「パラアスリートのスポーツキャリアの段階に応じた心理・社会的課題と支援方略の検討」（九州大学大学院 内田若希氏）
- ◆ 「限界集落におけるスポーツによる地域づくりの社会的機能・特性に関する実証研究」（東北福祉大学 村田周祐氏）
- ◆ 「良いスポーツ経験が青少年のキャリア形成能力に与える影響」（早稲田大学 青柳健隆氏）
- ◆ 「スポーツが効果的な婚活イベントに果たす役割 - スポーツ婚活参加者の期待と満足に焦点をあてて」（大阪国際大学 高見彰氏）ほか

『**笹川スポーツ研究助成**』は、2011年度に創設した助成制度です。スポーツに関する人文・社会科学領域の研究活動を支援し、わが国のスポーツ政策に関する議論を活性化させることを目的としています。募集のテーマは、**①スポーツ政策に関する研究、②スポーツとまちづくりに関する研究、③子ども・青少年スポーツの振興に関する研究**の3つとなります。助成額は上限100万円の「一般研究」と、39歳以下の若手研究者を対象とした、助成額上限50万円の「奨励研究」のふたつの枠で募集を行っています。

この件に関するお問合せ先
 笹川スポーツ財団
 スポーツ政策研究所 研究助成担当：工藤・山田・高橋
 TEL：03-5545-3303 grant@ssf.or.jp

～過去の笹川スポーツ研究助成採択研究の成果を紹介します。(一部)～

◆**幼児の投動作における遠投距離と正確性を向上させるための指導プログラムの開発**◆

岐阜大学 教育学部 准教授 春日晃章氏 (2013 年度採択研究)

研究目的：子どもたちの運動能力の中でも、特に「投動作（ボール投げ）」の低下が著しい。

本研究は、子どもたちの将来のスポーツ実施にも多大な影響をもたらすと考えられる投動作発達に資する、誰にでも（体育専門でない幼稚園教諭や保育士など）簡単に指導できる実用的な指導プログラムの開発を主たる目的とした。

＜指導プログラムの主なポイント＞

1. 1 回 30 分程度
2. 全プログラムは 8 回（週 2 回で 1 カ月）
3. 新聞紙を丸めたボールなど、誰でも簡単に作れる道具を用いる
4. 各指導時の最後には、ゲーム式のボール遊びを組み込む 他



＜成果＞「指導プログラムハンドブック」を作成し、子どもたちの指導現場で活用を始めた(岐阜市立加納幼稚園など)

◆**低レベル放射線下における幼少児の体力・運動能力、運動習慣等の現状と、その向上・改善のための取り組みに関する研究**◆

山梨大学 教授 中村和彦氏 (2012 年度採択研究)

研究目的：低線量放射線環境下にある福島県郡山市の児童を対象として、体格、体力・運動能力、運動実態・生活実態の現状を把握し、取り組みの改善と今後の課題を明らかにすることを目的とした。

＜提言＞

＜調査結果＞東日本大震災後の低レベル放射線下の子どもの体力・運動能力の現状が明らかに

- ①小学校第 1 学年の男子を除く、すべての学年において、体重が全国平均よりも統計的に有意に高く、肥満傾向が顕著に現れている。
- ②すべての学年において、体力テストの合計点が全国平均を下回っている。
- ③走・跳・投といった基礎的な運動能力や持久力が、全国平均を統計的に有意に下回り、その低下が顕著である。
- ④1980 年代以降、全国的に児童生徒の体力・運動能力は低下していたが、福島県郡山市においては、震災以降その傾向がより顕著である。

1. 郡山市での継続的な調査研究「郡山コホート」の実施
2. 運動環境の整備（室内運動施設の増設、学校の体育館の開放等）
3. 幼稚園・保育園での運動遊び、および小学校・中学校での体育授業の充実
4. フィジカル・ヘルス・コーディネータ（学校体育コーディネータ）の養成と派遣
5. 保護者への啓発と運動遊びの紹介
6. 地域の遊び・運動。スポーツ関係者のネットワークづくり

⇒本研究の成果が、復興庁復興推進委員会がまとめた政策方針『「新しい東北」の創造に向けて(中間とりまとめ)』に反映されました。(2013 年 6 月 5 日発表)

2015年度 笹川スポーツ研究助成 採択研究一覧<一般研究>
テーマ1. スポーツ政策に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
北海道	小名木 明宏	北海道大学大学院	教授	ドーピングの法的規制についての比較研究	720,000
東京都	舟橋 弘晃	早稲田大学 スポーツ科学学術院	助手	国民にとってのエリートスポーツ政策の価値-国際比較による検討-	1,000,000
東京都	植田 拓也	医療法人社団涓泉会 山王リハビリ・クリニック	理学療法士	軽度認知機能障害を有する地域在住高齢者における、認知症予防運動プログラムの効果	992,000
兵庫県	島本 好平	兵庫教育大学	助教	ライフスキルの獲得を促すスポーツコーチングスキル尺度の開発	1,000,000
福岡県	今村 律子	九州工業大学	博士研究員	最重度知的障がい者のための『マルチモードインストラクション』運動プログラム導入システムの開発	1,000,000
福岡県	内田 若希	九州大学大学院	講師	パラアスリートのスポーツキャリアの段階に応じた心理・社会的課題と支援方略の検討	988,000

テーマ2. スポーツとまちづくりに関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
北海道	石澤 伸弘	北海道教育大学 札幌校	准教授	スポーツ合宿が地域にもたらす経済波及効果の推計-北海道内の実施市町村に基づいた分析-	590,000
兵庫県	高見 彰	大阪国際大学	教授	スポーツが効果的な婚活イベントに果たす役割-スポーツ婚活参加者の期待と満足に焦点をあてて-	592,000
山口県	松本 耕二	広島経済大学	准教授	離島トライアスロン大会開催による地域活性化の波及効果に関する研究-運営手法の違いが地域愛着に及ぼす影響-	624,000
香川県	朴 侊玄	法政大学大学院	教授	日韓スポーツの国際交流事業からみた国境を越える地域間連携と持続可能な地域発展に関する研究	536,000

テーマ3. 子ども・青少年スポーツ振興に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
山形県	鈴木 和弘	山形大学	教授	幼小中の連携を視野に入れた子どもの体力向上とライフスタイル改善を目指す追跡的研究-社会的側面(家庭、地域、保護者の状況)を踏まえた取り組み-	1,000,000
茨城県	宮本 信也	筑波大学	教授	聴覚障害のある子どもたちのスポーツ活動支援に関する研究-スポーツを通じた共生人間科学を目指して-	1,000,000
埼玉県	竹中 晃二	早稲田大学	教授	プレイフルネス強化を意図した運動・スポーツ遊びプログラムの開発および評価-幼児および低学年児童を対象として-	1,000,000
埼玉県	大石 健二	日本体育大学	准教授	財政再建団体(夕張市)の生活環境は、子どもたちの体力・運動能力に影響を及ぼすのか?	900,000
東京都	塩田 琴美	早稲田大学	講師	障害児における健康教育を取り入れた運動・スポーツ推進のための基礎研究	1,000,000
神奈川県	渋谷 崇行	桐蔭横浜大学大学院	准教授	子供のスポーツ活動を支援する保護者の負担感とその影響要因-サポートシステムの構築に向けた基礎的研究-	889,000
山梨県	中村 和彦	山梨大学大学院	教授	低線量放射線環境下にある幼少児の体力・運動能力向上のための取組に関する縦断的研究(3)-運動遊びを促進する環境設定とプレイリーダーの養成-	700,000
岐阜県	春日 晃章	岐阜大学	准教授	運動が苦手な子ども達のための短期指導プログラムの開発と指導効果の検証	1,000,000
愛知県	中野 貴博	名古屋学院大学	准教授	子ども達が多様な運動動作を経験する地域拠点の創造と実践メニューの開発-官学連携による子ども達の体力向上拠点の形成-	878,000
兵庫県	曾我部 晋哉	甲南大学	准教授	安全な柔道授業実施に向けた幼児期・児童期の基礎運動能力向上のための段階的教育システムの検討-ドイツのコーディネーション・トレーニングを参考に-	613,000

2015年度 笹川スポーツ研究助成 採択研究一覧<奨励研究>
テーマ1. スポーツ政策に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
北海道	申 恩真	北海道大学大学院	大学院生 (修士課程)	日本の女子サッカー選手の競技継続要因をめぐる社会的学的研究	500,000
千葉県	伊藤 央二	和歌山大学	講師	ネパール連邦民主共和国のスポーツツーリズムに関する資格制度とその制度が地域雇用に及ぼす影響について	500,000
東京都	高田 紘佑	早稲田大学大学院	大学院生 (修士課程)	訪日観光資源としての伝統的スポーツ観戦に関する研究	500,000
新潟県	陣内 悠介	国際大学	講師	スポーツルールの制定と選手のパフォーマンスに関する実証分析	500,000
岐阜県	堺 千紘	岐阜薬科大学	助教	うっかりドーピング防止における製薬企業の取り組みの実態に関する調査研究	279,000
愛知県	石塚 創也	中京大学大学院	大学院生 (博士課程)	オリンピック・ムーブメントにおける環境保護対策に関する歴史的研究	500,000
大阪府	栗林 千聡	兵庫教育大学大学院	大学院生 (修士課程)	ジュニアアスリートの競技不安に対する認知行動療法の基礎研究	500,000

テーマ2. スポーツとまちづくりに関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
宮城県	村田 周祐	東北福祉大学	講師	限界集落におけるスポーツによる地域づくりの社会的機能・特性に関する実証研究	328,000
神奈川県	肥後 梨恵子	NPO法人 町田市レクリエーション連盟	主任研究員	都市部の公園を活用した健康づくり活動(公園体操)における参加者の心理的・社会的側面の変化に関する研究	263,000
石川県	谷島 範恭	金沢星稜大学 女子短期大学部	教授	総合型地域スポーツクラブにおける各種財務情報の開示状況とその有用性に関する実証研究	424,000
岡山県	高岡 敦史	岡山大学	講師	地域スポーツクラブにおける多様性を活かす場のマネジメント	315,000

テーマ3. 子ども・青少年スポーツ振興に関する研究

都道府県	名前	所属機関名称	職名	研究タイトル	助成額
宮城県	佐藤 敬広	東北文化学園大学	准教授	障害のない児童・生徒におけるアダプテッド・スポーツ教育の有用性の検証	500,000
茨城県	川戸 湧也	筑波大学大学院	大学院生 (博士課程)	中学校柔道授業に及ぼす直前のマット運動単元の効果の検証	422,000
埼玉県	青柳 健隆	早稲田大学	特別研究員	良いスポーツ経験が青少年のキャリア形成能力に与える影響	500,000
千葉県	鹿野 晶子	日本体育大学	一般研究員	保育園における幼児の「散歩」の効果検証	491,000
岐阜県	篠原 俊明	東海学院大学 短期大学部	講師	児童における基本的な動きの発達に関する研究	500,000
愛知県	村田 祐樹	中京大学	助教	保健体育科教職課程における「体育活動中の死亡・重度の障害事故」の取り扱いに関する研究	500,000
広島県	渡辺 泰弘	広島経済大学	准教授	保護者の関与と子どものスポーツ習慣形成に関する事例研究	350,000
福岡県	熊原 秀晃	中村学園大学	講師	ジュニア・アスリートの健全な発育を促す食生活の課題を探る	500,000
福岡県	門田 理代子	中村学園大学 短期大学部	助手	国際教育支援活動への参加が教職志望学生の意識変容におよぼす影響	330,000
福岡県	佐久間 智央	九州工業大学大学院	大学院生 (博士課程)	ソフトテニス競技におけるパフォーマンスの予測に関する研究	323,000